

事業の背景・目的

令和元年度からの事業を引き続き行うことで、より発展した内容で自然再生を実施できるようにする。また、新しい事業を行うことで、既存の協議会員や新たな参加者の加入し、より協議会が活発化できるようにする。

北潟湖自然再生事業実施計画の内容に沿って事業を実施することで、事業実施に対する協議会員の理解を深める。また、計画の各目標を達成することで、協議会員の自然再生に対する更なる意識向上を行うとともに、地域住民に対する自然再生への更なる気運向上を図っていく。

事業の内容

事業① 浜坂ヨシ原保全事業

- ・カスミ網を用いた標識調査
- ・センサーカメラ調査
- ・アライグマ対策

事業② 水環境検討事業

- ・環境DNAによる魚類相の調査
- ・北潟湖及び流域の水質調査

事業③ 水域ネットワーク再生事業

- ・人口産卵床で有用魚種育成
- ・魚道の管理、モニタリング

事業④ 赤尾湿地保全・再生事業

- ・希少種保全のための草刈
- ・赤尾湿地の管理・活用のための方向性を検討

事業⑤ 絶滅危惧昆虫類の生息地再生事業

- ・ビオトープの維持管理
- ・ビオトープの生息状況調査

事業⑥ 侵略的外来種防除事業

- ・ウシガエル、アメリカザリガニの防除
- ・効果的な対策の調査研究

事業⑦ 北潟湖自然再生担い手育成事業

- ・近隣小学校児童に対する自然観察会及び出前授業

事業⑧ 地域循環共生圏検討事業

- ・エコツーリズムの実施に向けた素材調査
- ・モデルプログラムの実施

得られた成果

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 浜坂ヨシ原保全事業 ② 水環境検討事業 ③ 水域ネットワーク再生事業 ④ 赤尾湿地保全・再生事業 ⑤ 絶滅危惧昆虫類の生息地再生事業 ⑥ 侵略的外来種防除事業 ⑦ 北潟湖自然再生担い手育成事業 ⑧ 地域循環共生圏検討事業 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 標識調査で 18 種を捕獲された ・ センサーカメラ調査でクイナやオシドリが撮影された ・ 環境DNA調査で31の魚種を確認 ・ 流域一斉水質調査で栄養塩の発生元を調査 ・ 水田での自然な魚類の育成の可能性を調査 ・ 赤尾湿地の外来種等を刈取り、コウホネ等を保全 ・ 赤尾湿地の活用方法を議論 ・ 初夏にはシャジクモが卓越する水面を確保し、秋季にはコナギが優先する植生が成立した ・ 115匹のウシガエル成体、2,054匹のウシガエル幼生、580匹のアメリカザリガニを駆除 ・ 小学生への環境教育及び出前授業の実施（出前授業3校、観察会実施4校） ・ 北潟湖をカヌーで楽しむモデルプログラムの実施・北潟湖周辺を楽しむ丘ルートの素材調査 |
|---|---|